

# 2023年3月期 期末 決算概要

長瀬産業株式会社

2023年5月9日

日々は仕事の毎日、  
景色は、

# 目次

■ 連結損益計算書	P3
■ 所在地別 売上総利益	P4
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P5
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P6
■ セグメント 営業利益概況	P7~P11
■ 主要製造子会社の業績概要	P12
■ 連結貸借対照表	P13
■ 連結キャッシュ・フロー計算書	P14
■ 通期業績見通し	P15~P16
■ 株主還元状況	P17

# 連結損益計算書

- ▶ 売上総利益：一部の製造子会社における収益性の悪化等により売上総利益率は低下したものの、全体としては増益
- ▶ 営業利益：売上総利益は増加したが、物流コストの上昇や活動量増加に伴う販売費及び一般管理費の増加により、減益
- ▶ 当期純利益：営業利益の減益および主に支払利息の増加等による経常利益の減益を受け、当期純利益も減益

(単位:億円)

	22/03	23/03	増減額	前期比	通期見通し	見通し比
売上高	7,805	9,128	+ 1,323	117%	—	—
売上総利益	1,394	1,554	+ 159	111%	1,590	98%
<利益率>	17.9%	17.0%	△0.8ppt	—	—	—
販売費及び一般管理費	1,042	1,220	+ 178	117%	1,210	—
営業利益	352	333	△ 18	95%	380	88%
経常利益	364	325	△ 39	89%	390	83%
親会社株主に帰属する当期純利益	259	236	△ 23	91%	285	83%
US\$レート (期中平均)	@ 112.4	@ 135.5	@ 23.1 円安		@ 140.0	
RMBレート (期中平均)	@ 17.5	@ 19.7	@ 2.2 円安		@ 20.0	

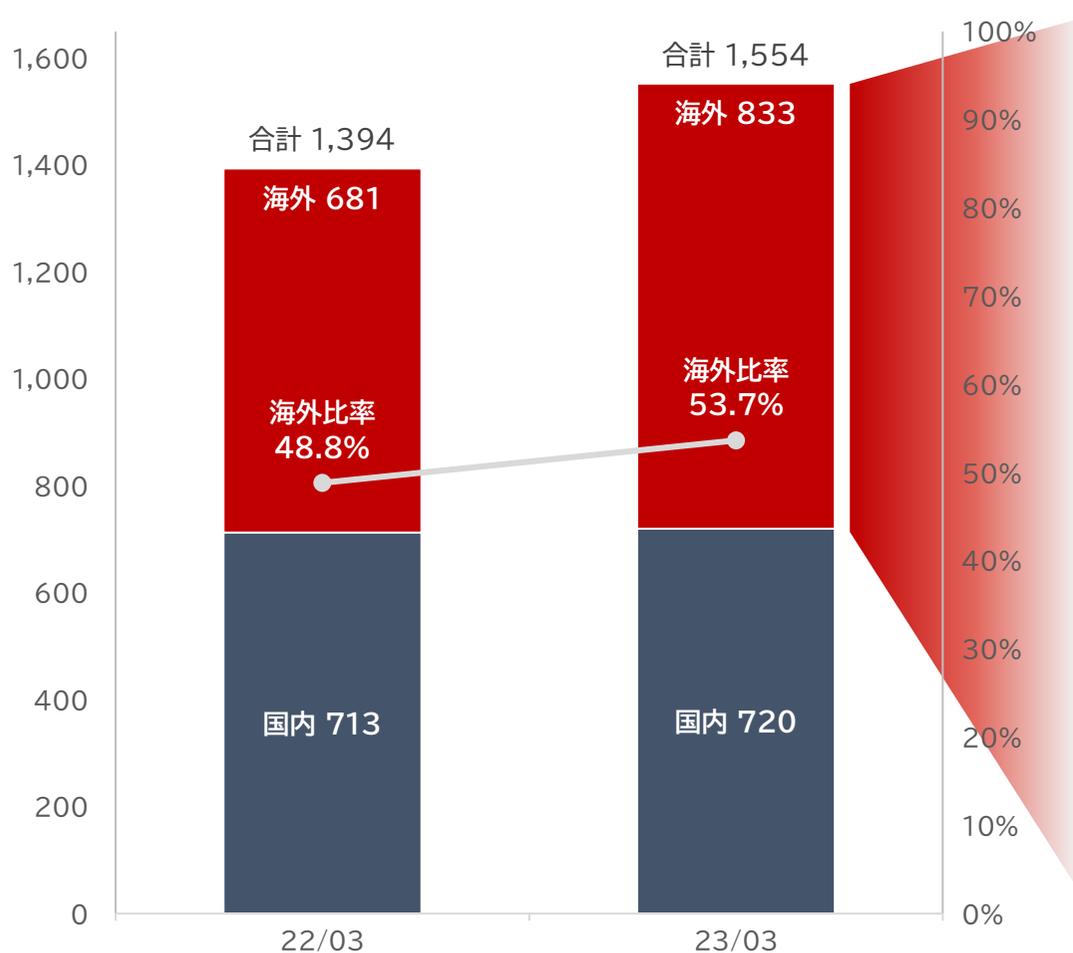
※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 22/03 -2,448億円 23/03 -2,689億円

※ 為替の影響 【売上総利益】+121億円 【営業利益】+29億円

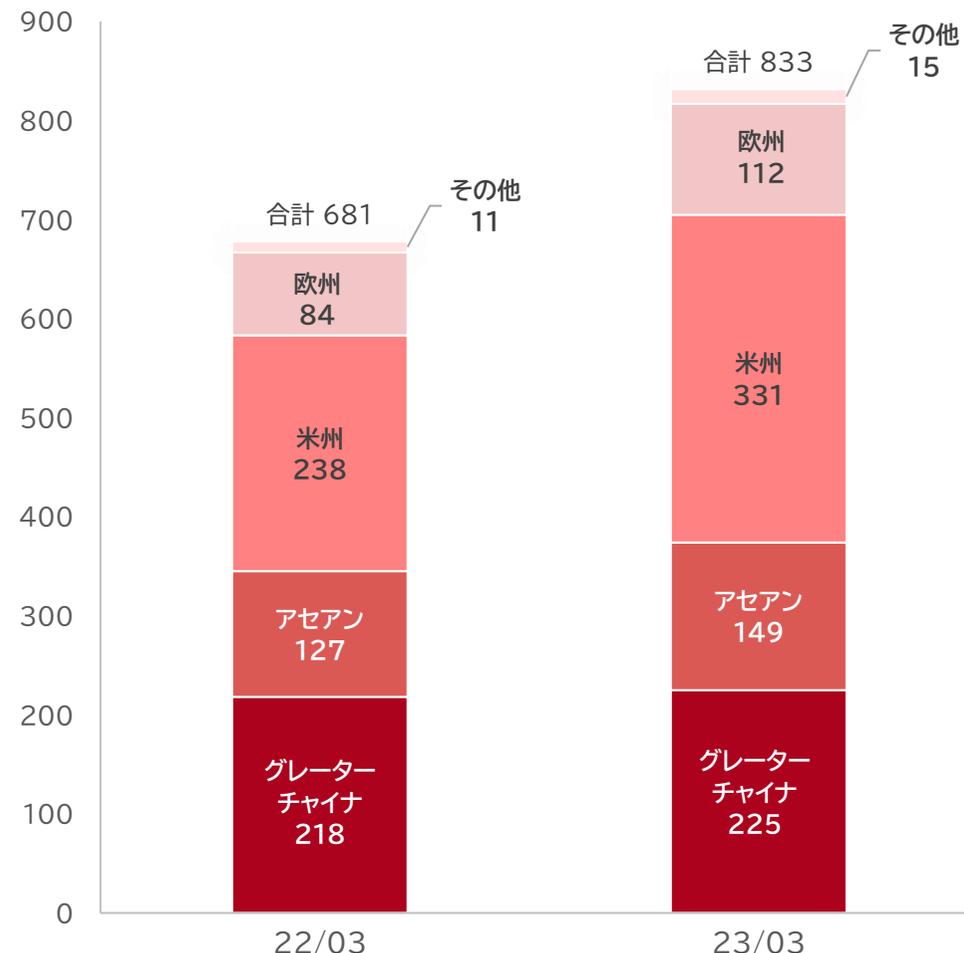
# 所在地別 売上総利益

- ▶ 国内および海外ともに増益
- ▶ 国内外ともに半導体業界向けの原料・素材販売が増加したことにより増益
- ▶ 米州・欧州はPrinovaグループのビジネス拡大により大幅な増益
- ▶ グレーターチャイナはロックダウンの影響はあったが、円安による影響もあり増益

## 国内・海外売上総利益（億円）



## 海外売上総利益の地域別内訳（億円）

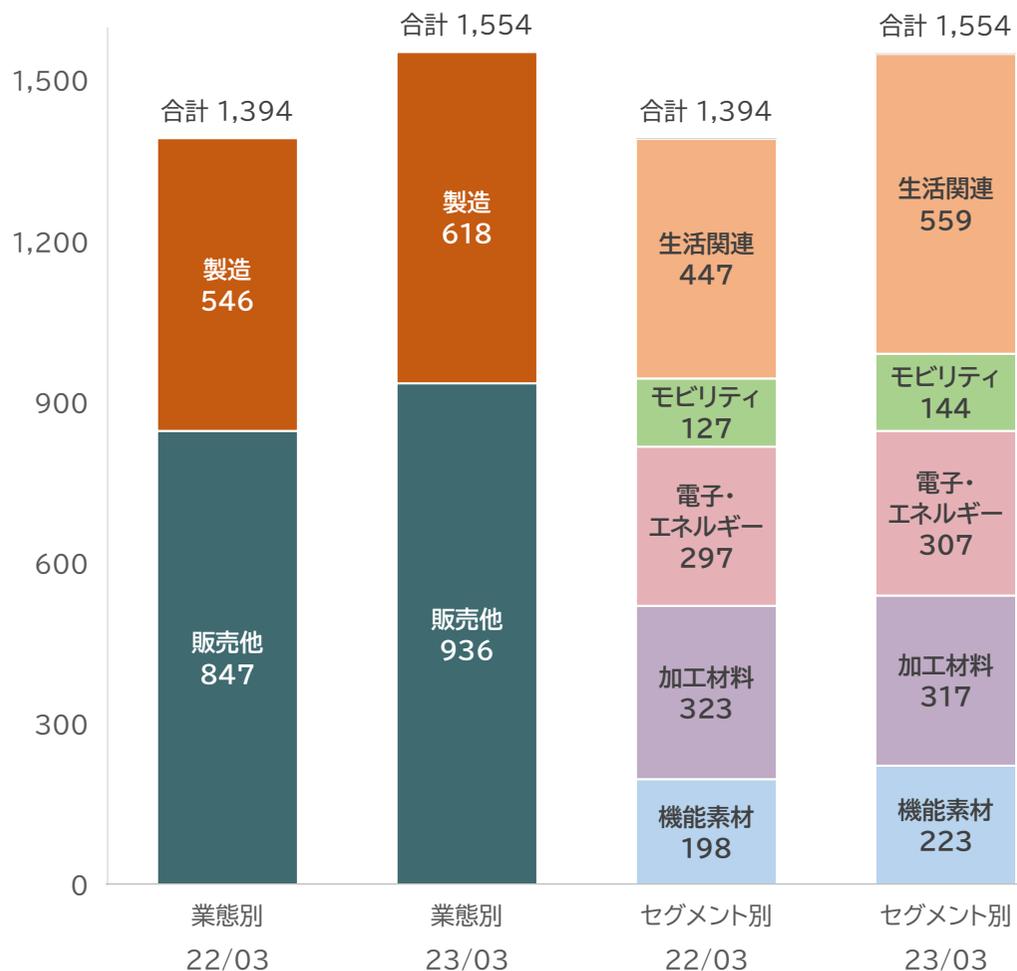


※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含みます。

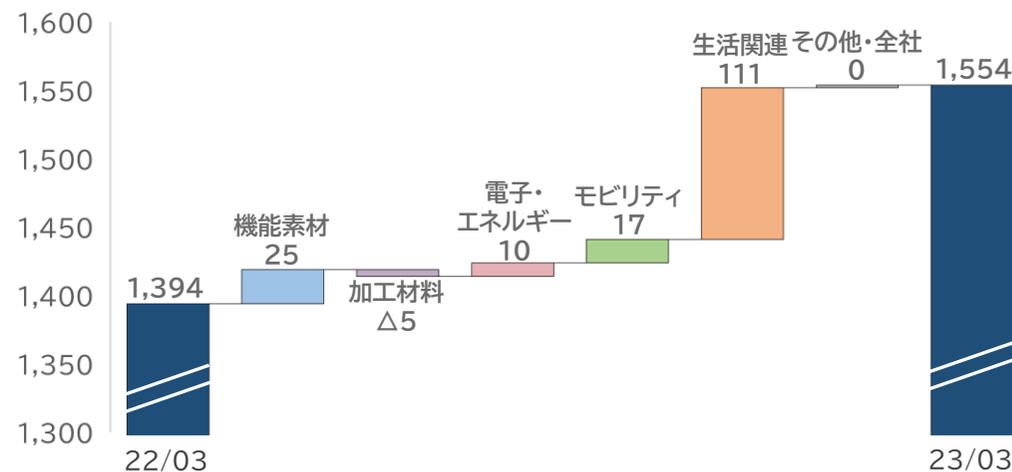
# 業態・セグメント別売上総利益 2期比較

- ▶ 機能素材は塗料・ウレタン原料、半導体関連等の電子業界向けの原料販売等、全般的に増加
- ▶ 加工材料は円安の影響はあったが、樹脂の販売数量の減少および前期の市況高騰による利益率上昇の反動等による収益性の低下により減益
- ▶ 電子・エネルギーは半導体用途の材料販売が増加
- ▶ 生活関連はPrinovaグループにおける食品素材関連ビジネスが増加

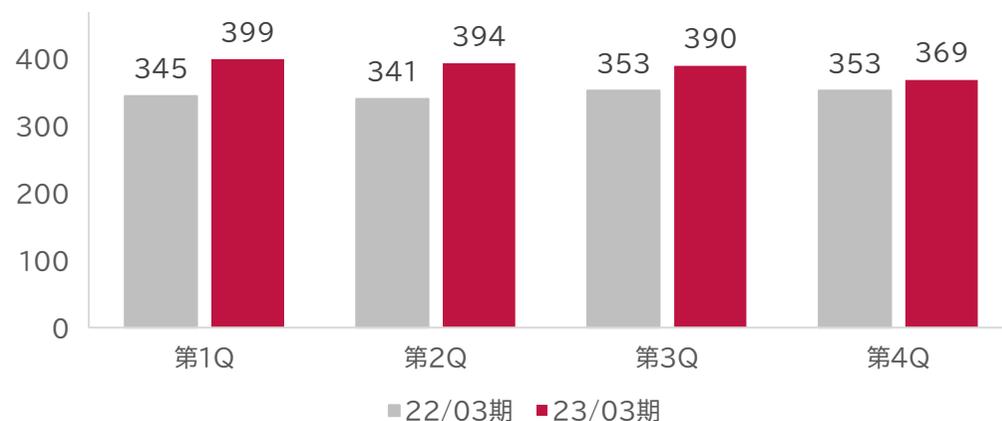
## 業態・セグメント別 売上総利益 (億円)



## セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



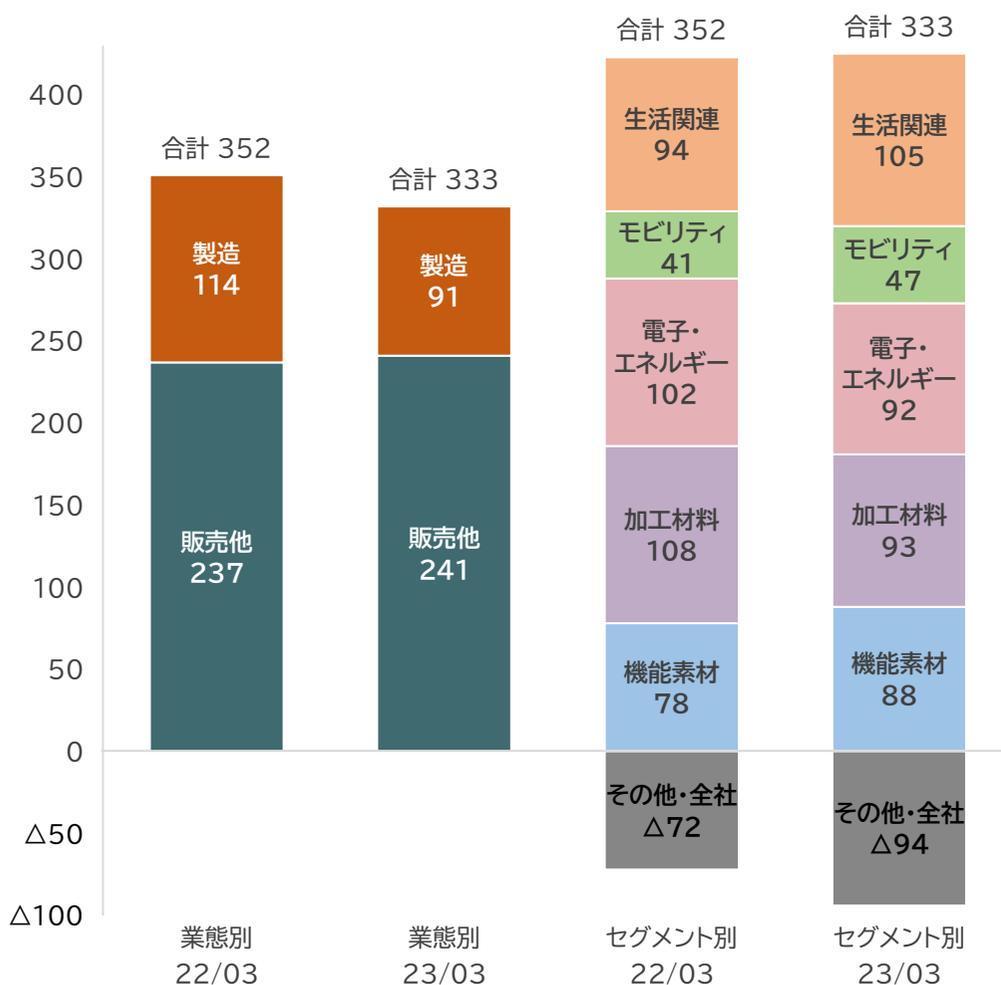
## 売上総利益 四半期推移 (億円)



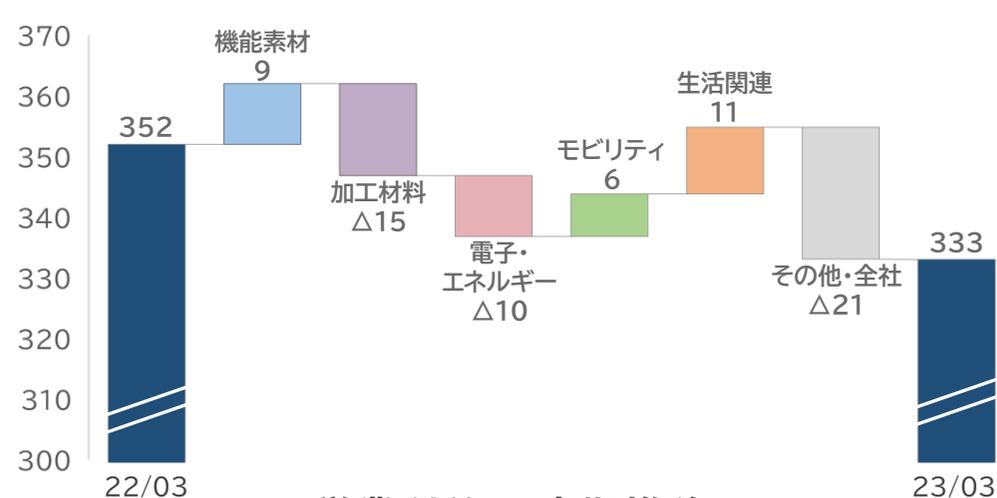
# 業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 物流コストの上昇や活動量増加に伴う販売費及び一般管理費の増加が売上総利益の増加を上回り、全体として減益
- ▶ 加工材料は前期の市況高騰による利益率上昇の反動や販売費及び一般管理費の増加等もあり、減益
- ▶ 生活関連は特にPrinovaグループの食品素材の販売事業が好調に推移し、増益
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施

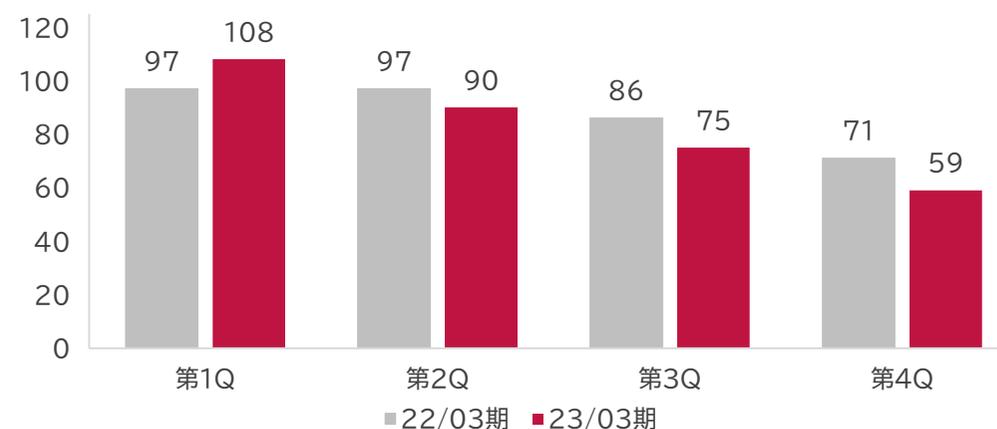
## 業態・セグメント別 営業利益 (億円)



## セグメント別 営業利益 増減 (億円)



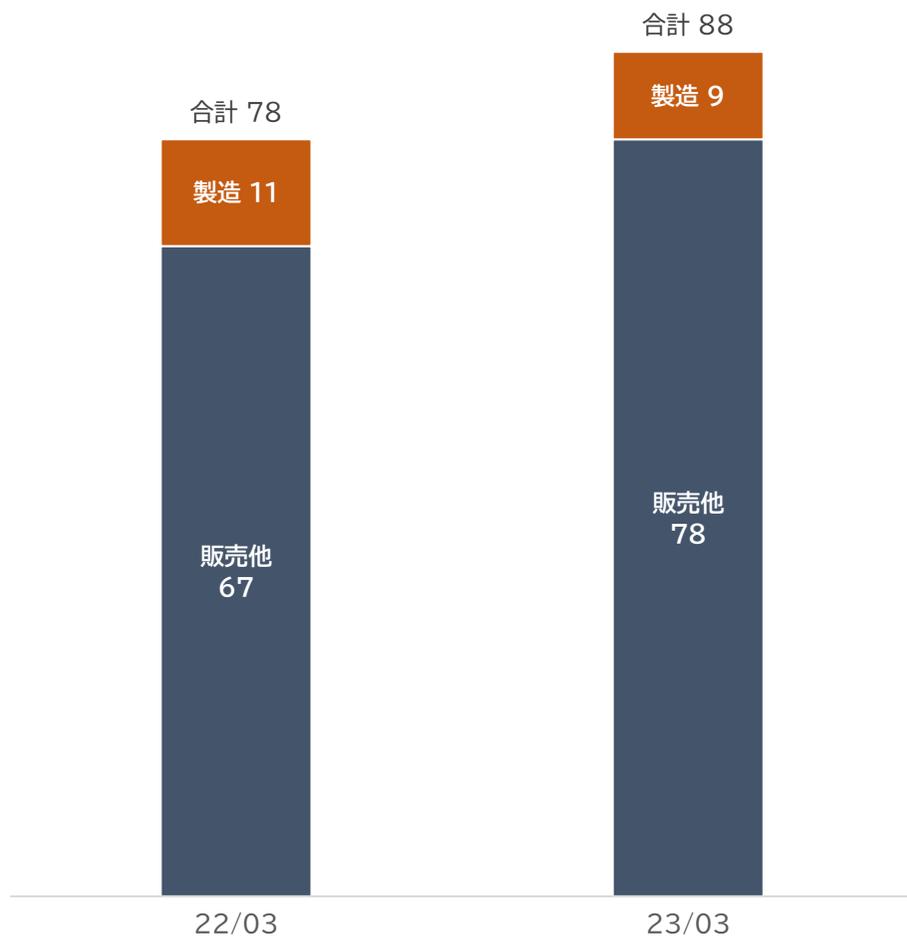
## 営業利益 四半期推移 (億円)



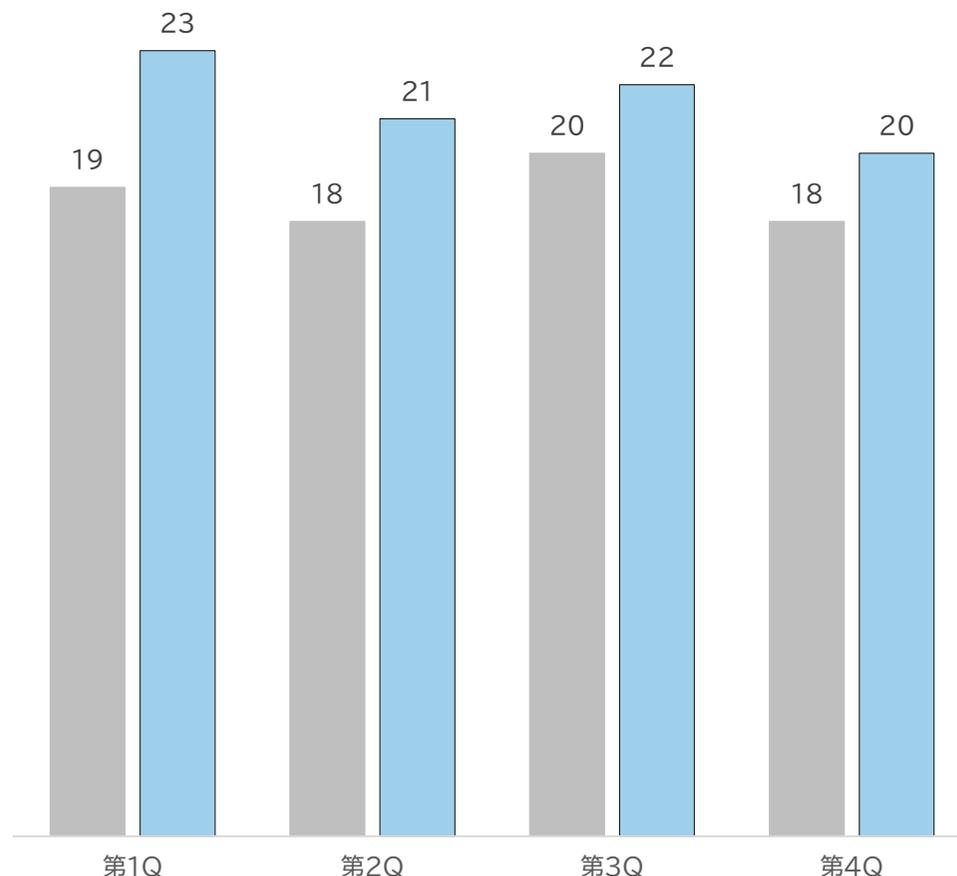
# セグメント 営業利益概況：機能素材

- ▶ 市況の高騰や円安による影響もあり、自動車業界等向けの塗料・ウレタン原料の販売が増加
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けの原料販売、加工油剤・樹脂関連の原料販売が増加
- ▶ 全体としては好調を維持し、前期と比べて増益

## 業態別 営業利益（億円）



## 営業利益 四半期推移（億円）

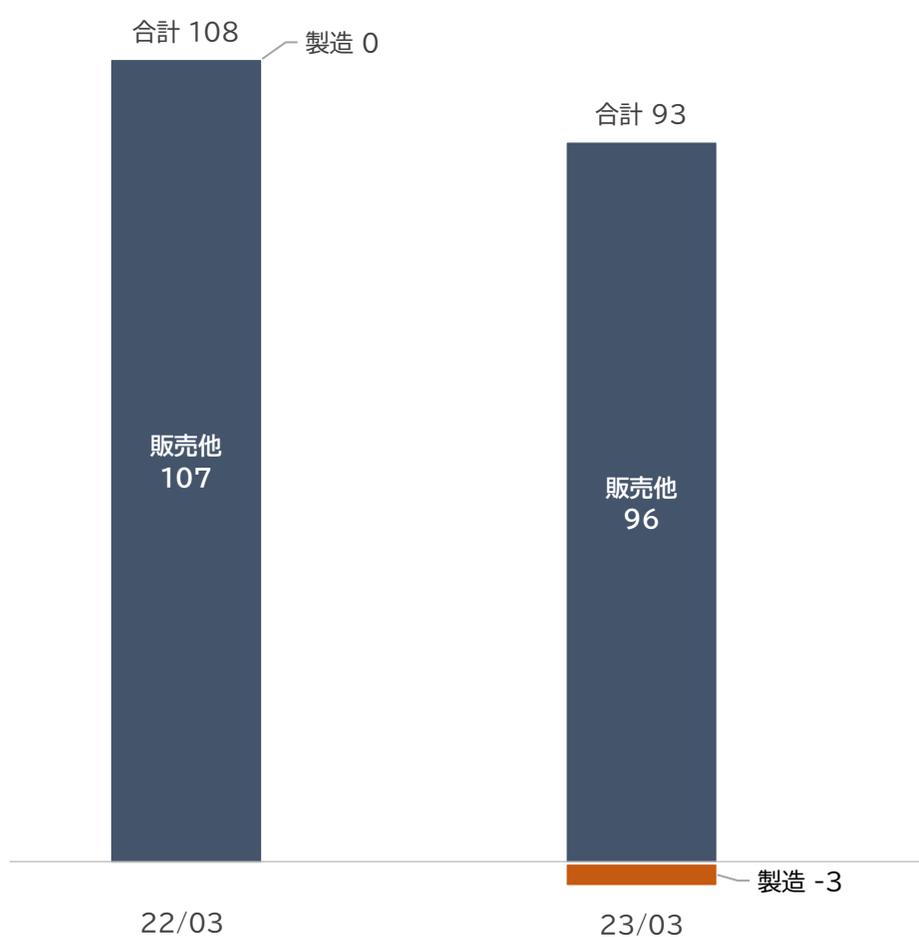


■ 22/03期 ■ 23/03期

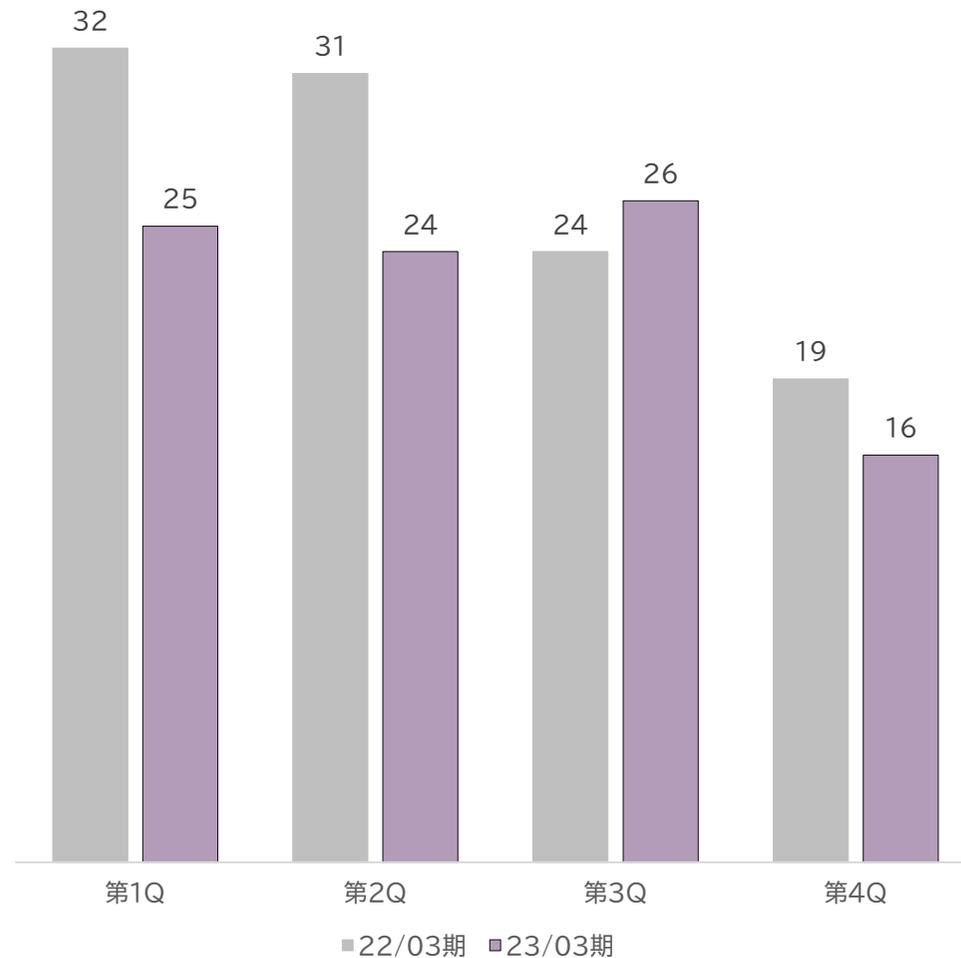
# セグメント 営業利益概況：加工材料

- ▶ 主にOA・ゲーム機器業界等への樹脂販売は円安による影響もあったが、前期の市況高騰による利益率上昇の反動等もあり収益性が低下
- ▶ 情報印刷関連材料の販売は製造ビジネスが引続き低調
- ▶ 樹脂販売、製造ビジネスにおける収益性の低下、販売費及び一般管理費の増加等により前期と比べて減益

## 業態別 営業利益（億円）



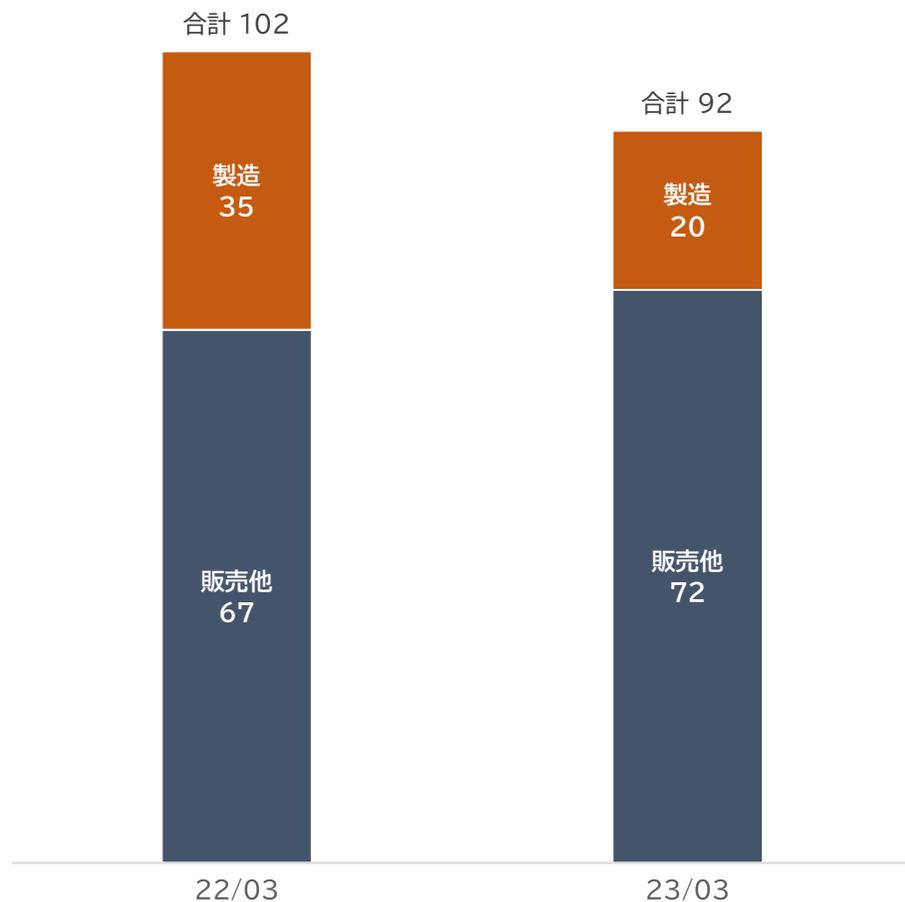
## 営業利益 四半期推移（億円）



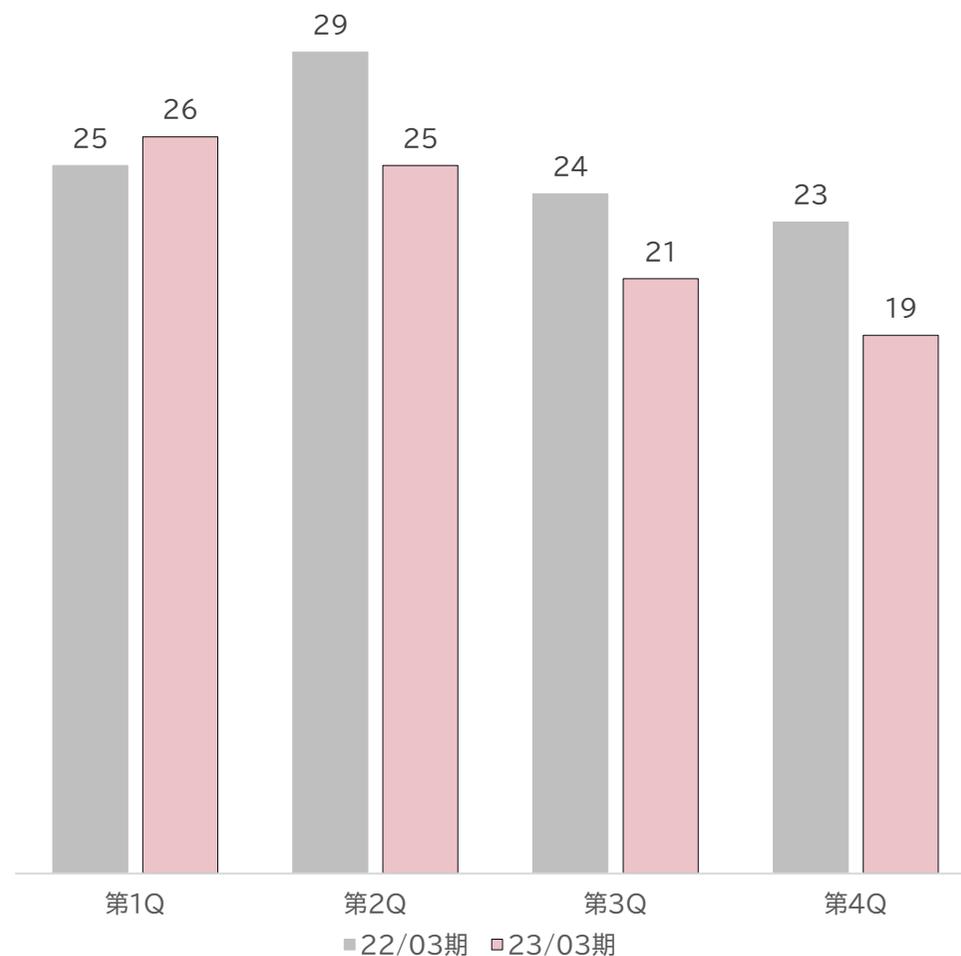
# セグメント 営業利益概況：電子・エネルギー

- ▶ 半導体用途向けの材料販売が増加
- ▶ 変性エポキシ樹脂関連の販売は半導体用途向け及びモバイル機器向けが低調
- ▶ 製造部門のモバイル機器向け変性エポキシ樹脂関連の販売低調の影響が大きく、前期と比べて減益

## 業態別 営業利益（億円）



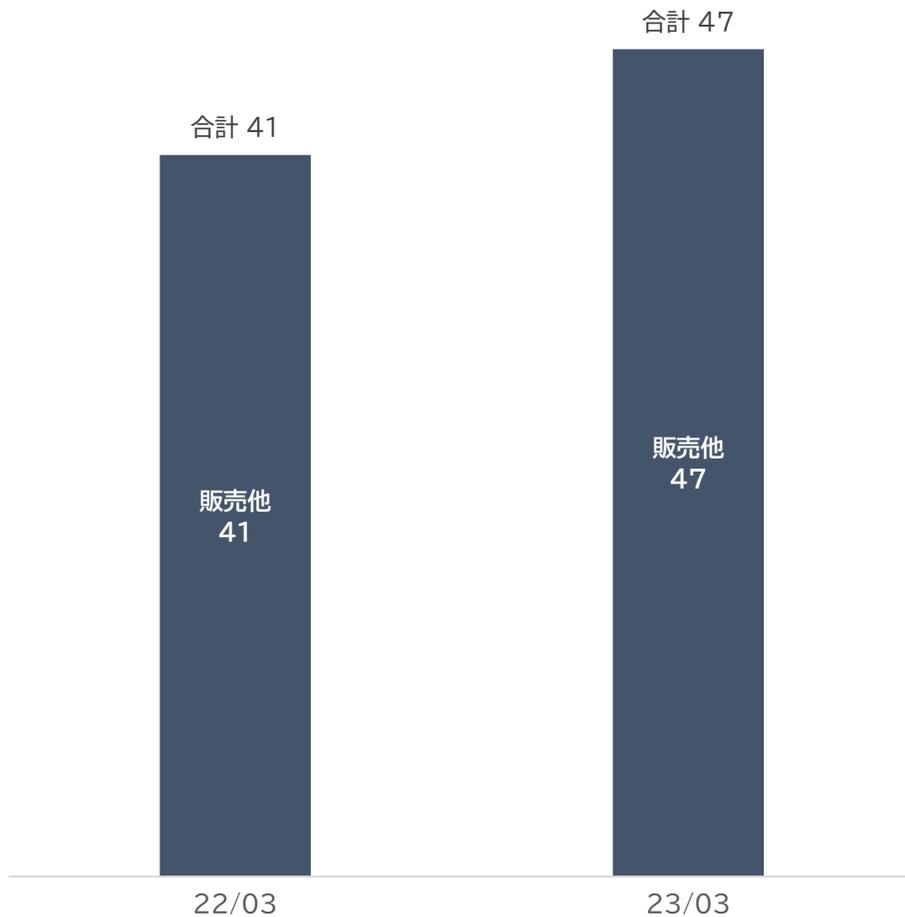
## 営業利益 四半期推移（億円）



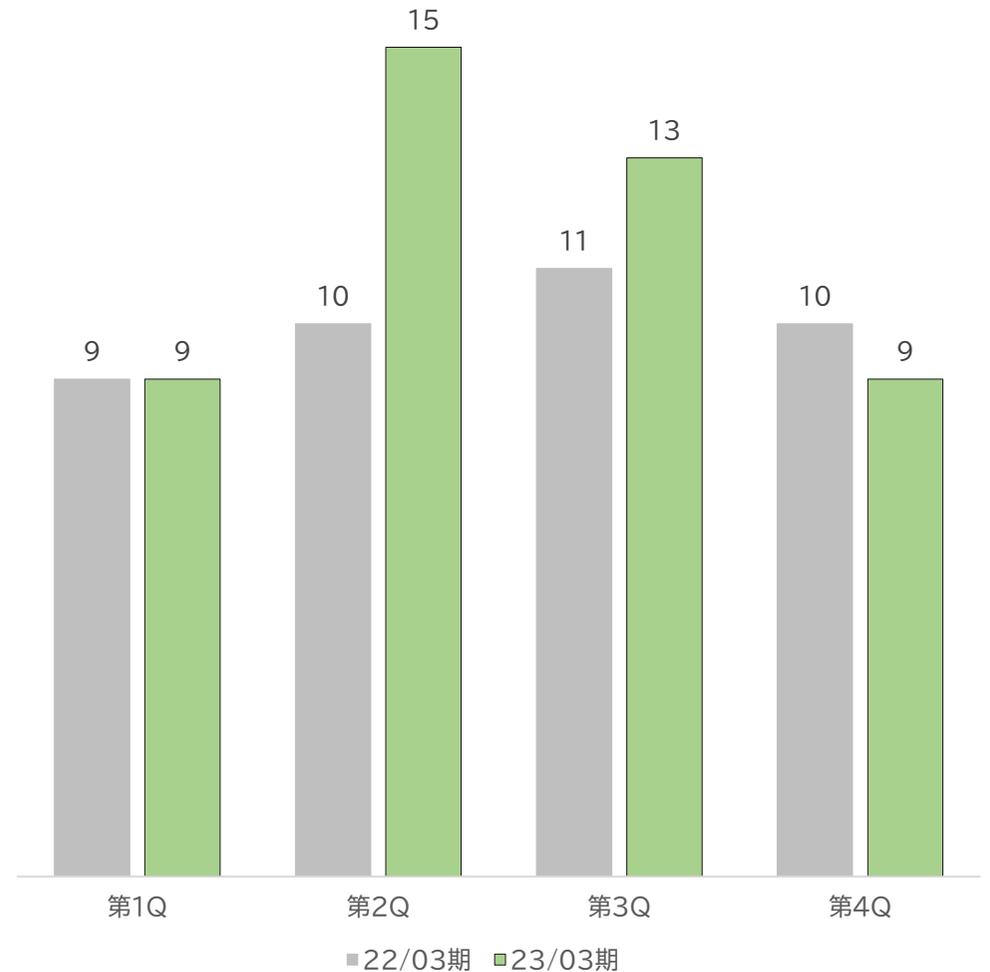
# セグメント 営業利益概況：モビリティ

- ▶ 樹脂の販売は自動車生産台数の増加に加え円安による影響等もあり、好調
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 全般的な販売好調を受けて、前期と比べて増益

## 業態別 営業利益（億円）



## 営業利益 四半期推移（億円）

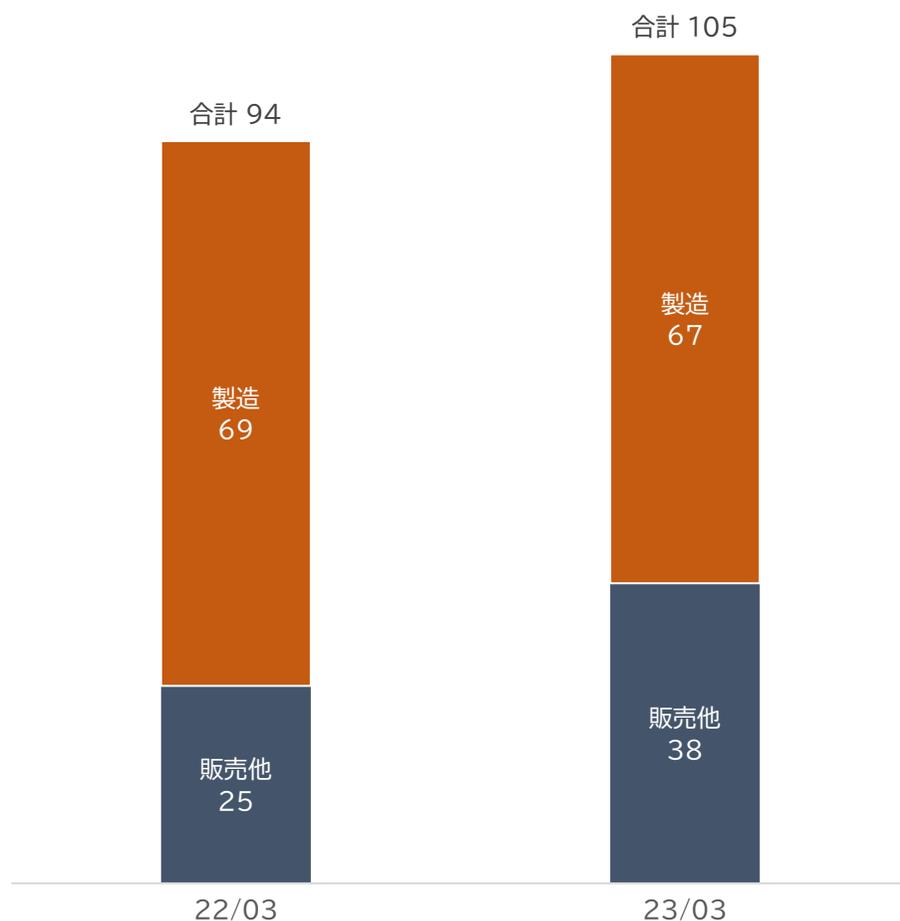


■ 22/03期 ■ 23/03期

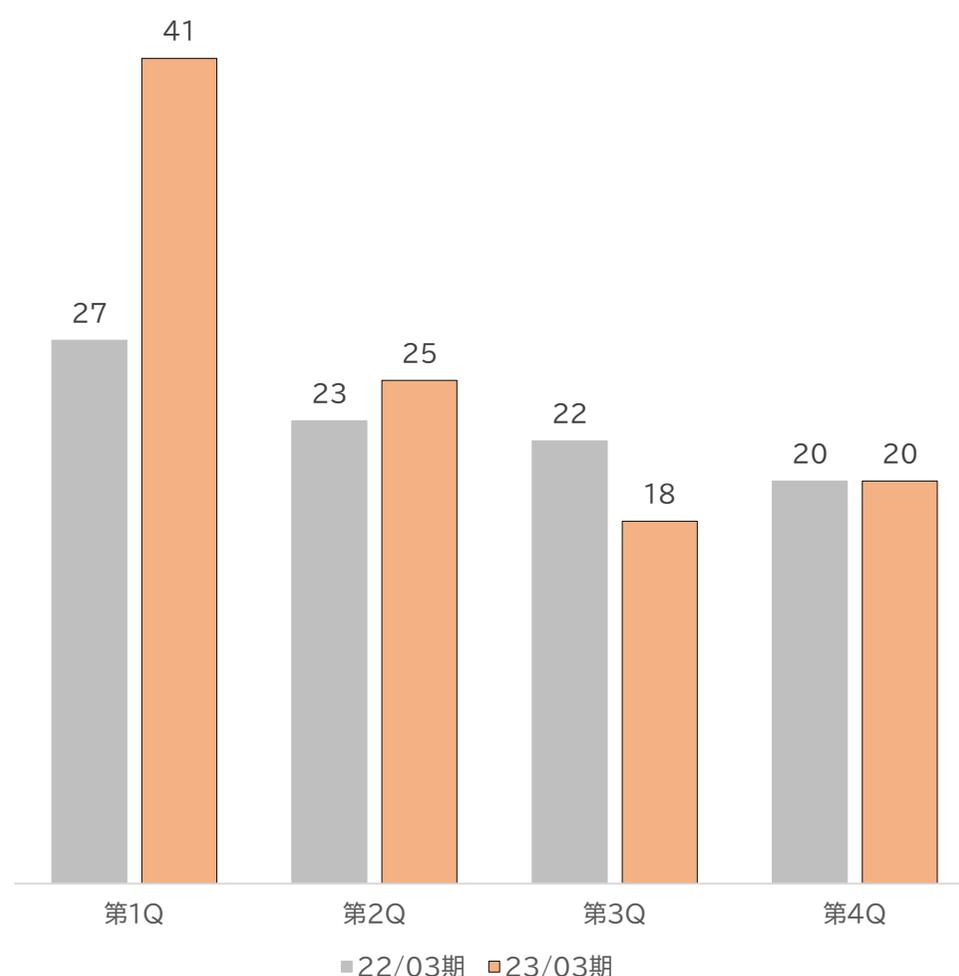
# セグメント 営業利益概況：生活関連

- ▶ Prinovaグループの食品素材販売は、第1四半期が特に好調に推移し、第2四半期以降、需給の調整も見られるが全体として好調を維持
- ▶ Prinovaグループの製造加工ビジネスは新工場の立上げに伴うコスト増加等の影響もあり、収益性が低下
- ▶ 林原はトレハ®を中心とした食品素材の販売は増加したが、AA2G®を中心とした香粧品素材は主に海外での需要減少を受けて販売が減少
- ▶ 林原は減益となったが、Prinovaグループの利益拡大、医薬品、香粧品関連の商社ビジネスが好調に推移したこと等により前期と比べて、増益

業態別 営業利益 (億円)



営業利益 四半期推移 (億円)



■ 22/03期 ■ 23/03期

# 主要製造子会社の業績概要

- ▶ ナガセケムテックス：半導体用途向け及びモバイル機器向けの変性エポキシ樹脂関連の販売が低調であったこと等から、減益
- ▶ 林原：香粧品素材AA2G®の販売減少や、原料価格、エネルギー価格の高騰による食品素材トレハ®の収益性低下もあり、減益
- ▶ Prinovaグループ：製造加工ビジネスは新工場の立上げに伴うコストもあり収益性が低下したが、素材販売は販売が増加し、増益

(単位:億円)

		22/03	23/03	増減額	前期比
ナガセケムテックス	売上高	289	253	△35	88%
	売上総利益	89	68	△20	77%
	営業利益	37	18	△19	48%
林原	売上高	265	281	15	106%
	売上総利益	108	103	△4	96%
	営業利益	45	37	△7	84%
	のれん等償却費	30	30	-	100%
	償却費負担後営業利益	14	7	△7	50%
Prinova グループ	売上高	1,209	1,927	718	159%
	売上総利益	218	312	93	143%
	営業利益	69	80	11	116%
	のれん等償却費	20	24	3	120%
	償却費負担後営業利益	49	56	7	114%

# 連結貸借対照表

- ▶ 流動資産：依然として高い水準だが、第3四半期をピークに売掛債権・棚卸資産は減少傾向
- ▶ 純資産：配当金の支払い・自己株式取得もあったが、当期純利益の計上、円安による為替換算調整勘定の増加等もあり増加
- ▶ NET D/Eレシオ：前期末と比較し増加しているものの、有利子負債の増加はピークアウトし、直前四半期の0.40倍から0.38倍へ低下

(単位:億円)

	2022年3月末	2023年3月末	増減額	主な増減
流動資産	5,142	5,301	158	
(現金及び預金)	542	408	△133	
(売掛債権)	2,898	3,021	122	
(棚卸資産)	1,575	1,697	121	
固定資産	2,254	2,325	71	
(投資有価証券)	756	697	△58	
資産の部合計	7,397	7,626	229	
流動負債	3,078	2,862	△216	1年内償還社債△100、短期借入金・CP+59
(買掛債務)	1,490	1,404	△85	
固定負債	767	980	213	社債+100、リース長期債務+87
負債の部合計	3,846	3,843	△3	
株主資本	2,988	3,090	102	
その他の包括利益累計額	454	586	131	為替換算調整勘定+167、有価証券評価差額△28
非支配株主持分	108	107	△1	
純資産の部合計	3,550	3,783	232	
運転資本	2,983	3,313	330	
自己資本比率	46.5%	48.2%	1.7%	
NET D/Eレシオ	0.33	0.38	0.05	

# 連結キャッシュ・フロー計算書

- ▶ 営業CF: 第4四半期における売上の減速や在庫削減により運転資本が減少に転じ、営業キャッシュ・フローは94億円の純収入
- ▶ 投資CF: 投資有価証券売却による収入等があったが、主に有形・無形固定資産の取得による支出等により80億円の純支出
- ▶ 財務CF: 主に配当金の支払いや自己株式取得等により172億円の純支出

(単位: 億円)

	22/03	23/03
営業活動によるキャッシュ・フロー	△177	94
投資活動によるキャッシュ・フロー	△76	△80
フリーキャッシュ・フロー	△254	13
財務活動によるキャッシュ・フロー	272	△172
換算差額	29	30
現金及び現金同等物の増減額	+ 47	△ 128
<hr/>		
有形・無形資産償却費	136	149
固定資産投資	△169	△173
運転資本の増減	△631	△200

# 2024年3月期 通期業績見通し

- ▶ 原材料、資源価格はロシア・ウクライナ紛争の長期化等もあり、引続き高い水準での推移を前提
- ▶ 各国でのインフレ、その引締め策の影響を受けた個人消費、経済活動の抑制等、事業環境は引続き厳しい状況が続く見込み
- ▶ このような状況の下、来期の通期業績見通しにおいては、自動車関連ビジネスの堅調な推移、フード関連ビジネスの成長の継続、前期厳しい状況であった製造ビジネスの収益性回復等により増益を見込む
- ▶ 5月を目途に発表を予定していた中期経営計画 **ACE 2.0** KGI・KPIの見直しは外部環境が変化していること等を踏まえ、内容を精査しており発表を延期

(単位:億円)

	23/03 実績	24/03 見通し	増減額	前期比
売上高	9,128	9,580	451	105%
売上総利益	1,554	1,710	155	110%
<利益率>	17.0%	17.8%	+0.8ppt	-
販売費及びび費 一般管 理 費	1,220	1,365	144	112%
営業利益	333	345	11	103%
経常利益	325	326	0	100%
親会社株主に帰属する 当期純利益	236	240	3	102%
US\$レート (期中平均)	@ 135.5	@ 135.0		
RMBレート (期中平均)	@ 19.7	@ 20.0		

※レートが1円変動した場合の営業利益への影響額:US\$ 約1億円、RMB 約4億円

# 2024年3月期 セグメント別業績見通し

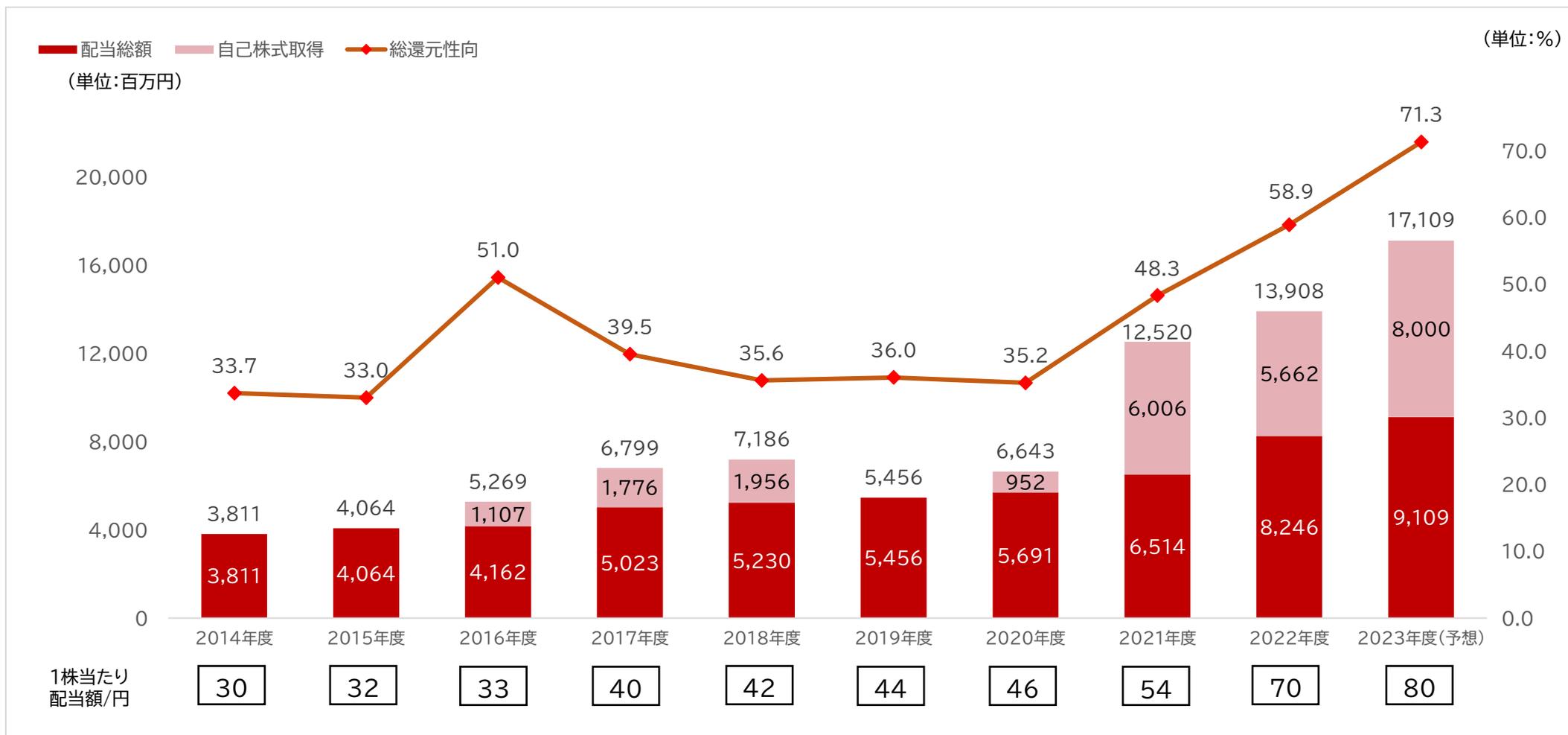
- ▶ 機能素材、モビリティは主に自動車生産台数の増加により引続き堅調を見込む
- ▶ 加工材料は主に中国におけるロックダウンの影響を受けて減少した樹脂販売数量の回復や、製造子会社の収益改善等により増益見込み
- ▶ 電子・エネルギーは主にモバイル機器向けの変性エポキシ樹脂の販売回復等により増益見込み
- ▶ 生活関連はPrinovaグループのスポーツニュートリションの製造受託の新工場の本格稼働、林原の収益性回復等により増益見込み
- ▶ その他・全社は将来の収益獲得のための開発費用の増加や、退職給付の数理差異の償却費が増加する影響を見込む

(単位:億円)

		23/03 実績	24/03 見通し	増減額	前期比
機能素材	売上高	1,120	1,150	29	103%
	売上総利益	223	229	5	102%
	営業利益	88	89	0	101%
加工材料	売上高	2,650	2,700	49	102%
	売上総利益	317	343	25	108%
	営業利益	93	110	16	118%
電子・エネルギー	売上高	1,369	1,500	130	110%
	売上総利益	307	338	30	110%
	営業利益	92	106	13	114%
モビリティ	売上高	1,255	1,356	100	108%
	売上総利益	144	156	11	108%
	営業利益	47	51	3	106%
生活関連	売上高	2,731	2,873	141	105%
	売上総利益	559	643	83	115%
	営業利益	105	113	7	107%
その他・全社	売上高	0	1	0	122%
	売上総利益	1	1	△0	62%
	営業利益	-94	-124	△29	—
連結合計	売上高	9,128	9,580	451	105%
	売上総利益	1,554	1,710	155	110%
	営業利益	333	345	11	103%

# 株主還元状況

- ▶ 2022年度の1株当たり配当金は期末配当を当初予定の30円から10円増配し、中間30円、期末40円の年間70円
- ▶ 2023年度も**ACE 2.0** の還元方針である継続増配のもと、1株当たり配当は10円増配の年間80円を予定(14期連続増配見通し)
- ▶ 2023年5月に80億円の自己株式取得を決議し、2023年度の総還元性向は71%となる見込み(取得期間:2023年5月~12月予定)



※ 2022年度の期末配当金は、2023年6月開催予定の第108回定時株主総会に附議予定です。

# **NAGASE** | **Delivering next.**

■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2023年5月9日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。